

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会
第 39 号
2014 (平成26) 年5月17日 (土)

論語塾に通って

北海高等学校2年 前鼻 綾音

私は高校に入学する際、新田先生に出会い論語塾を知りました。先生に論語塾を勧められ通い始めて丸一年がたちます。勉強や部活など学校でのことはとても大変ですが、論語の勉強もしっかり頑張ろうと思えます。

初めて論語塾に行ったとき、坐禅もするのかなと思った記憶があります。心を無にするなんて無理じゃないかと思いながらやっていたのですが、最近では意外に時間がたつのが早くて、もう終わったのかと思うことも時々あります。

ところで、学校生活を送るにあたり、とても心に突き刺さった章句があります。それは、「宰予、昼寝ぬ。子曰わく、朽木は彫るべからず、糞土の牆は朽るべからず。予に於てか何ぞ誅めん。」です。

私はしばしば居眠りをしてしまうことがあり、この章句を知ったとき、思わず顔が引きつるのを感じました。まるで自分のことを言われているような気持ちになり、自分の学校生活を思い返してみても、とても後悔しました。こんな風に言われるような人間になっていないだろうか。せつかくの与えられた機会をふいにして可能性を潰したりしてはいないだろうかと思いました。それから、少しでも自分の生活を見直し、他人に見られても恥ずかしくない自分になるべく努力しています。

私はいまだに未熟で学ぶことも多い身ですが、人に手を差し伸べられるような立派な人間になりたいと思えます。

※ 来月(6月21日)は、金子 沙紀 さんをお願いします。

【ちょっといい話コーナー】

名寄新聞、5月8日の「社説」に「こども論語塾」というタイトルで掲載されました。

友人は最大の宝

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

「死ぬ理由もないけど、生きていく理由もない。強いて言えば疲れた。」という遺書を残して女子高校生が自殺しました。このニュースを知った時、私は言いようのないやりきれなさを感じました。これが現代の若者の姿なのかと。「生きる」という営みを単に「人生に疲れたから」という理由で閉じてしまい死を選ぶ。

ごく一部の高校生のこととはいえ、自殺があつとを絶たない現状をどう考え、どう理解したらよいのでしょうか。社会が、学校が、家庭が悪いとか責任を他に転嫁するのではなく、若者は若者らしい夢とプライドを持ってこれからの人生を考え、自分に何が出来るかを冷静に見つめ、チャレンジ精神を持って困難に立ち向かっていってほしいと願うのは欲張り過ぎでしょうか。

今何かに悩み苦しんでいる塾生がいるとすれば私は言いたいのです。

自分としっかり向き合って、自分としっかり対話し、極端な結論を引き出す前に「ちょっと待てよ」と一呼吸置き、自分の身近な人に相談を持ち掛ける勇氣を持って下さい。

人生で大切なもの、それは財産でもなく、名誉でもなく、地位でもない。まさかの時に親身になって自分を理解し、助けてくれる友人、これこそが最大の宝だと私は塾生に訴えたいのです。